

大仙市人口ビジョンと総合戦略について

■大仙市人口ビジョン

人口の現状分析と将来推計を行い、将来目指すべき目標人口（R47年に42,000人を維持）を定めたもの。

■大仙市総合戦略

人口ビジョンで定めた目標人口を実現するために取り組むべき、今後の施策の方向性や、具体的な施策をまとめたもの。
各施策に「数値目標」と「重要業績評価指標（KPI）」を設定し、進捗状況を把握することで、取組の成果を「見える化」。

大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略 … 第1期：H28～R1年度

第2期：R2～R7年度 → R6.3に「大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略」に改訂）

人口ビジョン

- 大仙市の総人口は、R2年（2020年）時点で77,657人。S30年に約12万人を記録して以来、一貫して減少傾向にある。特に、2000年代に入ってから、△約1千人（1～2%）／年と、減少ペースが加速。
- 人口構造を見ると、現役世代の構成率が減少する一方、高齢人口の比率が増加する傾向にあることから、今後も人口減少は避けられず、さらに速いスピードで進んでいく見通し。
- 人口増減の要因は、出生と死亡による「自然増減」と、転入と転出による「社会増減」に区分される。出生数は、女性一人当たりの平均出産数と若年女性人口の減少により、今後も減少傾向が続く一方、死亡数は一定で推移。転出入については、若者の首都圏等への流出に歯止めがかかっていない。
- これらの状況から、大仙市では、出生数の増加と若者の地元回帰・定着を図りながら、今後も避けられない人口減少社会に適応したまちづくりを同時に進めることとし、目標人口は、R47年（2065年）に42,000人を維持することと設定。

総合戦略

4つの基本目標を設定

1. だいせんの未来を拓く地域産業の振興と新産業を育むまちづくり
（数値目標 … 新規就農者数、新規雇用創出数）
2. 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり
（数値目標 … 本市への移住者数、Aターン就職者数）
3. 結婚・出産の希望をかなえ子育てに喜びと安心を感じられるまちづくり
（数値目標 … 子育て支援の満足度、出生数）
4. 地域の生活を守り未来につなぐ元気あふれる地域づくり
（数値目標 … 住み良さの満足度、地域活性化の満足度）

数値目標の進捗状況を把握し、取組の成果を毎年度、検証することで、実効性を確保

意見

意見・
効果検証

大仙市総合戦略推進会議

人口減少の抑制と地方創生の実現のためには、行政のみならず、様々な分野の方々からのご協力が不可欠。
人口ビジョンと総合戦略の策定・推進にあたって、広く関係者の意見を反映させることを目的に設置。

大仙市総合戦略の施策の体系

基本目標	戦略パッケージ	具体的施策
基本目標 1 だいせんの未来を拓く地域産業の振興と新産業を育むまちづくり	(1) 未来を見据えた「だいせん農業」の確立	①新たな担い手呼び込む農業振興
		②大仙ブランドの確立、発信
		③地域企業等と連携した6次産業化と地産地消の推進
		④農業と食に関する活性化基本構想の推進
		⑤先端技術の活用による次世代農業への取組推進
		⑥森林の適正管理と林業後継者確保の取組強化
	(2) 地場産業の振興と人材の確保	①地域企業の情報発信と若者の雇用促進
		②多様な人材の活躍に向けた環境の整備
		③地域企業の販路開拓支援
		④中小企業の経営基盤強化
	(3) 地域資源を活かした産業の創出と育成	①花火産業構想の推進
		②企業誘致の推進
		③創業支援の強化
	(4) 商業の振興と魅力向上	①地域商業の活性化
基本目標 2 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり	(1) 移住・定住とAターンの促進	①大仙市移住・定住促進アクションプランの推進
		②若者を中心としたAターンの促進
		③子育て世代にとって魅力的なまちづくり
		④子どもが郷土に誇りを持てるふるさと教育の推進
	(2) 関係人口の創出と拡大	①シティプロモーションの推進
		②だいせん応援団とのつながり強化
	(3) 観光振興と交流人口の拡大	①花火をはじめとする地域資源を活かした観光振興
		②歴史や伝統文化を活かした地域活性化策の推進
		③スポーツを通じた交流人口の拡大
	(4) 地域資源を活用したインバウンド観光の推進	①外国人観光客向けの積極的な観光情報発信
		②特色ある花火大会と観光資源を結ぶ観光ルートの開発

基本目標	戦略パッケージ	具体的施策
基本目標 3 結婚・出産の希望をかなえ子育てに喜びと安心を感じられるまちづくり	(1) 出会いのきっかけづくりと結婚への支援	①結婚に対する意欲の向上と意識の醸成
		②イベント等によるきっかけづくり
	(2) 妊娠から子育てまでの切れ目のないサポート	①妊娠・出産への安心サポート
		②保育サービスの充実
		③子育て・家庭教育への支援
		④多様な子育てニーズへの支援
	(3) ワークライフバランスの推進	⑤子育て世帯の経済的負担の軽減
		①男性の育児参加の促進
	(1) ネットワーク型コンパクトシティの推進	②子育てと仕事の両立支援
		①機能集約型都市構造への転換推進
		②公共交通ネットワークの維持
		③地域拠点、生活拠点の形成促進
		④ファシリティマネジメントの強化
		⑤道路・橋梁の老朽化対策の推進
	(2) 地域の支え合いによる持続可能な地域コミュニティの形成	①雪対策の推進
		②買い物弱者を支える取組の推進
		③空き家対策の推進
		④地域住民が主体となった組織づくりの推進
		⑤生涯を通じ多様な人材が活躍できる地域社会の形成
	(3) 健康で安心して暮らせる地域づくり	①地域との協働による健康づくりの推進
		②安全・安心体制の充実
		③公園・緑地の適正配置と活用促進
		④「ゼロカーボンシティだいせん」の実現
		⑤質が高く、持続可能な行政経営に向けたDXの推進

大仙市総合戦略の効果検証について

- 大仙市総合戦略の推進にあたっては、取組を計画（Plan）し、それを実行（Do）に移し、その取組内容を点検・評価（Check）し、改善（Action）を進めていくというPDCAサイクルを採用。
- 大仙市総合戦略では、4つの基本目標について、8つの「数値目標」と55の「重要業績評価指標（KPI）」を設定し、取組の進捗状況を定量的に測定できるようにしている。
- これらの進捗状況を定期的に確認し、庁内担当部署による自己評価のほか、外部有識者を含む総合戦略推進会議において客観的・多角的な評価検証を実施することで、取組の成果や、取組を進める中で生じている課題等を具体的に把握。
- 検証結果を踏まえて、必要な見直しを総合戦略に反映させ、不断の改善を図っていくことで、取組の実効性を確保することとしている。

評価方法

数値目標・KPIの進捗状況は、以下の5段階で評価。

（評価基準）

- A 最終目標をすでに達成
- B 目標達成に向けて順調に推移
- C 現状のままでは目標達成できない可能性
- D 未達成となることが確実
- E 現時点で評価困難

※ ただし、人口減少対策、地方創生は、非常に広範囲にわたる取組であり、各施策の実施と数値目標の動向との関係が複雑になっている場合もあることから、A～Eの判断にあたっては、数値目標・KPIによる定量的な評価をベースにしつつ、数値に反映されないような定性的な評価も踏まえて、総合的に判断することとしている。

以下で、4つの基本目標ごとに数値目標・KPIの進捗状況を自己評価しています。

基本目標 1 だいせんの未来を拓く地域産業の振興と新産業を育むまちづくり

- 人口の流出を抑制し、定住を図り、次世代の人口を育んでいくためには、将来に不安なく働くことができる安定した雇用が重要。
- 基幹産業である農業の振興をはじめ、大仙市に集積する社会福祉・介護事業、医療業、総合工事業、小売業等の地場産業の振興や、地域資源を活かした新たな産業の創出などを通じて、量・質ともに充実した雇用を確保し、多様な人材が活躍できるまちをつくる。

全体評価

順調に推移している指標が多くあり、最終目標を達成している指標もあることから、基本目標の達成に向けて順調に進捗していると評価。

数値目標

① 新規就農者累計人数

B評価

R7目標 377人 R5実績 366人 (R5単年度 13人)

- 新規就農者研修施設における技術支援や国の経営支援制度等の活用により、目標達成に向けて順調に推移しているものと捉えている。
- 新規就農者の定着を図るためには、継続的な支援や相談体制の構築が必要であり、新規就農者研修施設における研修内容の充実や、研修終了後の支援を継続するなど、多様な就農希望に対応できる体制を整備していく。

② 新規雇用創出累計人数

C評価

R7目標 600人 R5実績 282人 (R5単年度 50人)

- 市の雇用助成金や創業支援事業、地域雇用活性化推進事業などの取組により、着実に増加しているものの、目標達成には遅れが生じている。
- 県内の有効求人倍率は、H27年以降は1.0を上回って推移しており、人手不足の状況が続いているものの、R5年以降は減少傾向となっており、R6.3現在で1.31となっている。
- 一方で、職種別に見ると求人・求職に偏りがあり、ミスマッチが生じている可能性が伺われることから、その解消により人材確保や早期離職の防止につなげていく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)

(1) 未来を見据えた「だいせん農業」の確立 (10指標)

農業法人設立の動きが加速しているほか、スマート農業機械の普及が進んでいる。担い手となる新規就農者研修施設の研修者も順調に推移している。

(2) 地場産業の振興と人材の確保 (5指標)

コロナ禍の影響が緩和されたことで、県外就職の動きが活発化しているものの、高卒者の県内就職希望率は高水準で維持している。高卒者の離職率は職場定着セミナー等の実施により改善傾向にある。

(3) 地域資源を活かした産業の創出と育成 (4指標)

コロナ禍後の花火需要の増加により、花火関連の指標は前年度から大きく改善し、煙火出荷額は過去最高額となっている。

(4) 商業の振興と魅力向上 (1指標)

コロナ禍後の経済活動の回復に伴い、新たな活動が活発化しており、がんばる商店等支援事業の利用団体数は、既に目標を達成している。

戦略パッケージ名／評価	A	B	C	D	E	計
(1) 未来を見据えた「だいせん農業」の確立	2	6	2			10
(2) 地場産業の振興と人材の確保	1	3	1			5
(3) 地域資源を活かした産業の創出と育成		4				4
(4) 商業の振興と魅力向上	1					1
計	4	13	3			20

基本目標2 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり

- 転出超過の状況を改善するため、市内企業の求人情報の紹介や、移住支援金等の給付のほか、郷土への愛着を育む教育を行うなど、学業等で市外へ転出した若者のAターン※や地元への定着を促進する施策を実施する。 ※Aターン…秋田県へのUターン、Iターン、Jターンの総称
- また、地域の魅力を高め、積極的に情報発信していくことで、観光やスポーツを通じて訪れる「交流人口」や、地域外にあって様々な形で市と関わってもらう「関係人口」などのつながりを構築し、将来的な移住層の増加を図る。

全体評価 順調に推移している指標があるものの、進捗が思わしくない指標も多くあることから、基本目標の達成に向けてやや遅れが生じていると評価。

数値目標

③ 本市への移住者数

C評価

R7目標 550人 R5実績 426人

- コロナ禍での地方移住への関心の高まりや移住促進に向けた各種取組の実施などにより、移住者が大きく増加したものと捉えているが、目標には達していない状況。
- コロナ禍の影響が緩和されたことで、再び人の流れが首都圏に向いており、今後さらなる加速が懸念されることから、変化するニーズを的確に捉えるとともに、明確なターゲットिंगのもと、移住体験ツアーなど移住者の増加に向けた取組をより一層強化していく必要がある。

※ 移住者＝「転入後、5年以上大仙市に住む意思のある者」と定義。

④ Aターン就職者累計人数

B評価

R7目標 430人 R5実績 294人 (R5単年度 76人)

- コロナ禍による影響の緩和により、Aターン希望者の減少が懸念されたが、Aターン求職者はR4年度と同程度の人数で推移している。(R4:131人、R5:129人)
- 求職者の就職率は、R4年度の約4割に対し、R5年度は約6割に上昇し、特に女性は7割を超えている。
- 一方で、就職に結びついていない方が約4割(53人)となっていることから、引き続き企業説明会の実施や各種情報発信に積極的に取り組み、就職を促進していく。

※ Aターン就職＝秋田県内を就業場所とする県外在住者向けの求人に対し、県外在住の求職者が応募し、成立した就職。

重要業績評価指標 (KPI)

- (1) 移住・定住とAターンの促進 (4指標)
リモート形式による企業説明会や面接が広がっており、Aターン就職につながっているが、進捗には遅れが生じている。移住体験も進捗に遅れがあるものの、移住希望者のニーズを把握しながら着実に開催している。
- (2) 関係人口の創出と拡大 (2指標)
複数のSNSアカウントを運用し、それぞれの特性に応じた情報発信に努めており、登録者数は増加傾向で推移している。ふるさと納税の件数も受付サイトの拡充や返礼品の充実などにより、増加傾向で推移している。
- (3) 観光振興と交流人口の拡大 (3指標)
コロナ禍の影響が緩和され、観光入込客数の増加により、経済波及効果額も回復してきているが、コロナ禍前の水準には回復していない状況にある。
- (4) 地域資源を活用したインバウンド観光の推進 (2指標)
コロナ禍の影響が緩和され、歴史的な円安も相まってインバウンド需要が高まっており、外国人宿泊者数は、コロナ禍前を大きく上回っている。

戦略パッケージ名／評価	A	B	C	D	E	計
(1) 移住・定住とAターンの促進		2	2			4
(2) 関係人口の創出と拡大	1		1			2
(3) 観光振興と交流人口の拡大		2	1			3
(4) 地域資源を活用したインバウンド観光の推進		1	1			2
計	1	5	5			11

基本目標3 結婚・出産の希望をかなえ子育てに喜びと安心を感じられるまちづくり

- 一定の人口規模と安定した人口構造を保つためには、合計特殊出生率の改善と出生数の増加が重要。
- 出会いの機会創出などによる結婚への支援から、出産、子育てまでの切れ目のない支援体制を構築するとともに、男性の育児参加促進をはじめとした子育てと仕事の両立支援などを通じ、結婚、出産、子育てに喜びと安心を感じられる「子育てに寄り添うまち」を創造する。

全体評価 数値目標の進捗は思わしくないが、KPIは最終目標を達成している指標や順調に推移している指標が多くあることから、基本目標の達成に向けては、やや遅れが生じているものの、概ね順調に進捗していると評価。

数値目標

⑤ 子育て支援の満足度

C評価

R7目標 70.0% R5実績 49.1%

- ・ 子育ての経済的負担の軽減や子育てしやすい環境の整備など、子育て支援の充実に努めており、基準値を上回る数値を維持しているものの、目標値には達していないことから、満足度をさらに高めていくため、子育て世帯のニーズに適った支援や施策を検討していく必要がある。
- ・ 子育て施策におけるDXの推進や子育て世帯にニーズの高い屋内遊び場施設の整備など、引き続き、あらゆる施策に子どもや子育て世帯の目線を取り入れ、子育てしやすい環境の充実に取り組んでいく。

⑥ 出生数

C評価

R7目標 520人 R5実績 308人

- ・ R3年度は、これまでの減少傾向が下げ止まったことから、改善に転じることを期待したが、R4年度に再び減少し、R5年度はコロナ禍での婚姻数の減少などの影響により、大きく減少している。
- ・ 出生数の増加のためには、子育てに伴う経済的負担の軽減や保育園等の受入体制の強化など、直接的な子育て支援策のほか、川上対策として女性の定住や出会い・結婚に関する支援、仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりなども着実に進めていく必要がある。

重要業績評価指標（KPI）

(1) 出会いのきっかけづくりと結婚への支援（2指標）

あきた結婚支援センターへの登録助成人数は着実に推移している。出会いイベント助成金への申請は、目標を上回る4件となっており、うち3件が高いマッチング効果が期待できる先駆タイプでの申請となっている。

(2) 妊娠から子育てまでの切れ目のないサポート（5指標）

年度途中の待機児童が1人発生しており、計画的な施設整備や保育士の確保など、引き続き待機児童の解消に向けた取組を進めていく。子育て世帯向け住宅リフォーム支援事業は、R4年度に制度内容の見直しを行ったことにより、申請件数は減少しているが、大規模な工事の件数や三世帯世帯かつ多子世帯の件数は増加している。

(3) ワークライフバランスの推進（2指標）

パパママ教室の父親の参加率は、母子手帳アプリからの申込みを可能としたことや、父親の登録を促したことに加え、父親の家事・育児に対する参加意識の高まりなどもあり、上昇している。女性活躍に関するセミナーは、年々参加者が増加しており、着実に意識醸成と理解促進につながっている。

戦略パッケージ名／評価	A	B	C	D	E	計
(1) 出会いのきっかけづくりと結婚への支援	1	1				2
(2) 妊娠から子育てまでの切れ目のないサポート	1	3	1			5
(3) ワークライフバランスの推進	2					2
計	4	4	1			9

基本目標4 地域の生活を守り未来につなぐ元気あふれる地域づくり

- 今後も続く人口減少社会においても**持続可能な地域**をつくるため、医療・福祉・商業等の都市機能や居住を、市中心部や各地域の拠点へと緩やかに誘導するとともに、中心地と各拠点を地域公共交通で結ぶ、**ネットワーク型コンパクトシティ**を推進する。
- また、**地域コミュニティ**を形成し、除雪や買い物支援、空き家といった課題に地域の支え合いのもと取り組むとともに、健康づくりや防災対策の推進、そして地域全体でGXやDXを加速させていくなど、**健康で安心して暮らせる持続可能な地域づくり**に取り組む。

全体評価

KPIは進捗が思わしくない指標が多くあるものの、最終目標を達成している指標や順調に推移している指標もあり、数値目標も順調に進捗していることから、基本目標の達成に向けては、やや遅れが生じているものの、概ね順調に進捗していると評価。

数値目標

⑦ 住み良さの満足度

B評価

R7目標 87.2% R5実績 85.4%

- 前年比▲2.3ポイントと低下しているが、基準値よりも高い値で推移している。
- 住み良さを感じる基準は人それぞれであり、要因を一つに特定することはできないが、コロナ禍の影響が緩和されたことにより、首都圏との往来の回復など、社会経済活動が活発化してきていることなども要因の一つと捉えている。
- 引き続き、中長期的な展望のもと、市民ニーズを的確に捉えながら、必要な施策を着実に実行し、住み良さを感じられるまちづくりに取り組んでいく。

⑧ 地域活性化の満足度

B評価

R7目標 30.0% R5実績 27.8%

- コロナ禍による影響が緩和されたことにより、地域において中止や延期となっていた各種イベントなどの地域活動が再開され、活気が戻りつつあることもあり、前年比+1.9ポイントと上昇している。
- 引き続き、地域拠点を活用し、地域の活性化に取り組む彩色千輪プロジェクト事業の推進や、地域予算の活用などを通じて、住民主体による地域の特性に応じた特色ある取組を後押しするなど、持続可能な地域づくりを進めていく。

重要業績評価指標（KPI）

(1) ネットワーク型コンパクトシティの推進（6指標）

市全体として人口減少が進行していることから、市中心部に設定した居住誘導区域内の人口も減少傾向となっている。公共交通空白地区は、R5年度に乗合タクシーを導入したことにより1地区解消している。

(2) 地域の支え合いによる持続可能な地域コミュニティの形成（5指標）

地域予算の取組団体数は、コロナ禍による影響の緩和により、中止等となっていた活動が再開するなど、活発化してきている。子ども・若者総合相談センターの利用者は昨年度から大きく増加しているが、利用者によって異なる状況などから学校・社会への復帰者は微増にとどまっている。

(3) 健康で安心して暮らせる地域づくり（4指標）

介護予防いきいき隊の養成者数は順調に推移しているが、活動の促進や継続が課題となっている。自主防災組織については、組織率が9割以上となっているが、活動率はコロナ禍での停滞の影響などもあり、5～6割程度で推移している。

戦略パッケージ名／評価	A	B	C	D	E	計
(1) ネットワーク型コンパクトシティの推進		3	3			6
(2) 地域の支え合いによる持続可能な地域コミュニティの形成	1	2	2			5
(3) 健康で安心して暮らせる地域づくり	1	1	2			4
計	2	6	7			15